

普及活動の成果

様式6(左)

課題名 : 未来を創るランキュラス・花木の産地づくり

振興局名 : 県北振興局

活動対象 : 県北地域ランキュラス生産者連絡協議会、北松花き花木部会サカキ専門部会、

サカキ個人生産者、JAながさき西海茶部会世知原地区部会

実施期間 : 平成29年4月～平成30年3月

【対象の概要】

ランキュラス : 0.43ha (佐世保市)

サカキ : 北松花き花木部会サカキ専門部会 21ha (世知原・小佐々) 世知原町サカキ個人植栽者 1.5ha 以上

【課題設定の背景】

1. ランキュラスは栽培適温が低く、冬季の省力品目として栽培されている。一昨年度は、球根強制乾燥処理技術により収量増加に繋がったが、栽培技術が未確立で十分な収量が得られていない。
2. 県北地域のサカキ産地は、共同出荷組織及び個人植栽者の両方において、高齢化、後継者不足により労働力が不足し、生産圃場が減少している。また、遊休圃場では、労働力の確保・調整が行われていないため、放置及び業者の参入が進んでおり、産地の維持が困難となってきた。

【活動目標】

1. ランキュラス
 - ・ 定植から活着までの初期生育時の栽培管理徹底による収量増加。
 - ・ 品質向上を目指した球根強制乾燥条件検討及び展示圃を設置。
2. サカキ
 - ・ サカキ等出荷組織を核とした経営規模拡大や新規参入者支援による共同出荷数量の増加
 - ・ サカキ等の生産性向上を目指した地域労力活用による労力支援システムの形成と本格稼働

【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

新技術導入などの技術指導については農産園芸課技術普及班の指導を仰ぎながら振興局が先導的な役割を果たし実施した。流通販売や組織支援についてはJAと取引市場の連携のもと実施。地域内圃場の実態把握は佐世保市や県北振興局林業課との連携のもと実施。各種講習会については、地域農業振興協議会専門部会活動の一端として、連携活動をおこなった。

【活動経過】

1. ランキュラスの産地強化
 - ・ 繰越球根の再利用率を高める技術である“葉タバコ乾燥機を活用した球根の強制乾燥処理”の支援を生産者及び農協と連携して実施した。
 - ・ 球根定植前下温対策及び活着後管理方法など栽培管理に係る支援を実施した。
 - ・ 強制乾燥処理の最適温度及び期間を検証するため展示圃を設置し、検討会で生産者へ情報提供した。
2. 花木の産地強化
 - ・ 労力支援システム「世知原サカキサポートシステム（以後4S）」のモデル実証を実施した。その中で明らかとなった課題について、4S代表者と関係機関で課題解決に向けた検討会を実施するなど、約1年間のモデル実証を経て、本格稼働開始に向けたキックオフ会を開催した。
 - ・ 雇用型で花木栽培経営の法人や、共同管理・出荷を行っているハランの組織の視察研修を行った。
 - ・ 個人生産者の共同出荷推進のため関係機関、生産者とともに巡回や圃場調査を実施した。
 - ・ 4S登録園の荒廃園の再生と作業性向上を目的として、4Sの作業員と部会員を対象に、荒廃サカキの剪定作業実証研修会を実施した。

様式6(右)

【普及活動の成果】

1. ランキュラスの産地強化
 - ・ 6月に生産者10名、60コンテナ分の球根強制乾燥処理を実施。栽培期間がアスチルベの競合す

るため前年（13名、79コンテナ）に比べて処理数は減少したが、今年度ラナンキュラス生産者11名中10名は強制乾燥処理に取組み、生産者から信頼された技術として定着している。

- 11～1月期の総出荷本数は26,735本（昨年比81%）で昨年度より減少した。生産者数（昨年比77%）及び栽培面積（昨年比72%）の減少、球根定植時期10月上旬の高気温による球根定植の遅れが起因したと考えられる。
 - 強制乾燥処理の展示圃において、35℃3日間及び43℃3日間の乾燥条件で最も採花数が多かった（1月末時点）。引き続き調査を実施し、乾燥処理の最適温度及び期間を確認する。
2. 花木の産地強化
- システムの本格稼働に向け、課題解決を行いながらモデル実証支援を実施。モデル実証期間の出荷（システム利用）実績は7,978束で部会でのトップ出荷者に次ぐ実績であった。運営状況も整ってきたことで、本格稼働に当たって、会員や関係者の賛同を得、キックオフ会を開催できた。この会議の中でシステムの内容を再度周知することで今後のシステム利用率の向上も期待できる。
 - 先進地視察では、花木の結束場の状況や被雇用者の作業体系、雇用条件、共同管理、出荷の仕組みなどが視察でき、システム運営における支援の参考となった。
 - 荒廃サカキの剪定作業実証研修会では、4Sの作業員や部会員が剪定のポイントを学ぶことができ、さらにマニュアルを作成することができた。また、剪定作業により、園地の圃場整備と併せて、剪定枝を4Sで結束出荷することができた。
 - 共同出荷推進では、システム利用者の掘り起こしにより、新規出荷者、部会員含めて、現段階でシステム登録圃場12名（約1ha）、収穫者2名、結束者4名で稼働している。

【対象の声】

1. 県が強制乾燥処理の取組みを推進していることを理解している。生産者数が戻つぼみになっている状況で県に新しい要求は出しにくい。難しいが勉強会等は参加者を広く参集してほしい。
2. サポートシステムは、よく支援してもらっている。併せて、病害虫の暦は提供してもらっているが、山林の散布が困難であるため、4Sの作業員向けポイントを絞った散布方法の資料がほしい。

【今後の課題】

1. ラナンキュラスの産地強化
 - 展示圃で検証した強制乾燥の最適条件を次年度の強制乾燥処理で活用する。あわせて繰越球根の養成や栽培管理に関わる技術指導を推進する。
2. 花木の産地強化
 - 本格稼働に向けたキックオフ会が開催されたので、本格稼働の円滑な運営支援を継続する。
 - システムの運営については、順調であるものの、生産部会員が高齢化による出荷量の減少が見られるため、システムの利用率の拡大や担い手の育成などに向け、世知原地域外も含めて支援を継続する。



【成果の活用及び普及活動上の留意点】

- (1) ラナンキュラスの繰越球根強制乾燥処理については、適温、適期間を把握し、次期作の強制乾燥技術に活用する。
- (2) 世知原で本格稼働した労力支援システムの立ち上げにいたるまでのノウハウを他地域でのシステム形成に生かす。

【発表・参考資料】

なし